

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397400041		
法人名	(株)福祉の里		
事業所名	グループホーム遊楽苑西春(Aユニット)		
所在地	愛知県北名古屋市弥勒寺東3丁目183-1		
自己評価作成日	平成27年11月30日	評価結果市町村受理日	平成28年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26番地スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成27年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域交流では幼稚園との交流、自治会の盆踊りの参加、地域の防災訓練に参加している。家庭菜園を苑内で行い利用者様と一緒に育て、収穫している。施設業務ごとにスタッフに担当を付け月に一度報告して業務改善を行っている。個々に研修に参加してスキルアップを行っている。また中学生の職場体験の場を提供して、あいち夢はぐみサポーターに認定された。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者にとってホームは家であり、家庭的な雰囲気の中でいきがいと安らぎのある毎日が過ごせるよう、職員は思いやりの心で利用者個々に沿った対応を行っている。本人や家族の希望があり常時医療行為を必要としなければ、家族や医師・看護師・職員などと協力し、最期まで楽しく過ごしてもらえるよう支援している。職員のスキルアップのために法人として年12回の研修や、資格習得の勉強会を行っている。また、毎月のミーティングで勉強会も行い、職員は自己研鑽に励んでいる。地域での関わりでは年3回幼稚園との交流会があり、園児達の歌やお遊戯を見たり、手作りのプレゼントをもらうなど、子どもとの触れ合いを楽しんでいる。また、散歩時に近所の人から庭先の花などをもらい、居室に飾っている利用者もあり、交流関係が構築されている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に基本理念を唱和している。理念を共有して仕事・実践するように努めている	開設当時に職員で作上げた基本理念と代表が作った「お客様約束十ヶ条」を毎日交互に唱和し全員で共有している。職員は利用者一人ひとりに合った対応で、いきがいと安らぎのある生活が過ごせるよう、理念に沿ったケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会して回覧板を利用者様と一緒に回し地域の行事にも参加している。地域の幼稚園とも交流している	散歩時に近所の人と挨拶を交わし、庭先の花を頂いたり、地域の盆踊りやごみゼロ運動などに参加し交流関係を築いている。また、幼稚園との交流会や中学生の職場体験などで、子どもとの触れ合いも楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩等で地域の方にお会いした時は挨拶し知っていただくように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催してサービスの向上に繋げている	会議では資料を基に施設運営状況や事故報告など行い、メンバーから意見や助言を得てサービス向上に活かしている。また、避難訓練や幼稚園児との交流会の見学も取り込みながら、奇数月に開催している。	会議の議事録を作成し、運営推進会議の参加者には配布しているが、参加しない家族には行っていない。家族がいつでも見られるようファイルし、玄関などに設置されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協力関係が気づける様に自治会の方と交流したり、地域の行事に参加している	役所には運営推進会議の案内や事業所だよりを持参し、利用者と一緒に出向いている。市の職員とは顔馴染みで、いつでも相談できる関係が築かれている。市主催の防災や後見人制度などの研修に職員は参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回は、勉強会を開催している。夜間のみ施錠して、日中は手動でも開けられる	勉強会で身体拘束を取りあげ、職員は内容と弊害についてよく理解している。玄関の施錠は夜間のみで、職員は常に目配りを行い自由な暮らしを支援している。居室での安全確認のために、センサーを設置している人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で勉強してミーティングにて報告している。スタッフ同士も注意を払い、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会で勉強してミーティングにて報告している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、苑長が担当。十分な説明を行い理解・納得できるまで説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度の家族会や懇談会・面会時に随時話し合う機会がある。3か月に1回生活状況を送付している	利用者は日常生活の中で、家族からは面会時や年1回の家族会で、意見や要望を聞いている。出された意見などは日誌や連絡帳に記入し、朝礼で伝え情報を共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度の個人面接を行ったり、月に1度のミーティングにて反映されている	職員は毎月のミーティングや個人面接で意見や提案を行っている。管理者はなるべくフロアに入り、職員から直接話を聞くように心がけている。職員の提案で8月から朝礼時に、1分間スピーチを行うようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長が自ら苑の様子を見に来られ環境設備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会も多く、社内研修の他、自己研鑽にて参加する職員も多い		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の会議や研修に参加して他授業者との交流、情報交換を行いサービスの向上に努めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前ご本人、ご家族との面接をおこなっている。入居後は積極的な会話をし、要望等に耳を傾け安心できる関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前家族の要望を細かく聞き、よい関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意見や必要としている支援を見極めて、必要なサービスができよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や趣味などを一緒に行う事で共に暮らしているという安心できる関係を築いていける様に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡をとりながら、共に支えていく関係を築けるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知り合いの方が来苑された時は、お茶などをお出ししてゆっくり過ごして頂けるように努めている	友人の来訪時には居間でゆっくり話をしたり、家族に電話や年賀状を出すなど、今までの繋がりが継続できるよう努めている。また、お盆のお墓参りや、孫の結婚式など馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事活動やレクリエーション、体操等利用者様同士関われる様に支援している会話は職員が間に入り会話が広がる様に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて行ってきたい		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を通じて希望・意向をお聞きしている。困難な場合は家族の希望を聞き職員で話し合っている	利用者からは日々の関わりの中で直接意志や希望を聞いている。家族からは入所時にも意向を聞き、職員全員で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルをいつでも見れる様にしている。会話の中から聞いて把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・日誌・連絡帳・申し送りで現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでの話し合い、ケアプランのチェック表の活用、3か月に3か月に1度のモニタリングを実施	3ヶ月に1度モニタリングを行い、利用者が望んでいることをケアプランに反映している。その時々どんな支援が必要か、ミーティングを通して職員全員で話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌・申し送り事項の確認、細かい事も連絡帳を通して情報の共有を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	浴槽に入ることが不自由な方は社内のサービスを利用して器械浴に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加する機会がある。苑庭で野菜を育てている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回協力医の往診を受けている。家族と連絡を取り緊急時も相談・対応していただいている	入所時に家族、利用者の意向を聞いている。月2回内科の往診の他、歯科、皮膚科、整形などの協力医とも連携を結んでいる。緊急時にも対応してくれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師により適切な看護を受けられる様支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会時に病院看護師より情報を得て苑長が主になり病院と細かい情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看とりを行い勉強会を開いてチームで支援した。重度化した際は家族と十分話しあっている	1年に1度終末期についてのアンケートを行っている。重度化し、変化がある度に家族と話し合いどの様な支援が出来るか、家族の希望を出来るだけ尊重し看取っている。看取った後「ふりかえり」としてどうだったかを考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、AEDの設置、消防署立ち合いの講習、勉強会を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2カ月に1回利用者様と一緒に避難訓練を行っている。非常食の備蓄もある。セコムとも連携している	地域の防災訓練に職員が参加している。2ヶ月に1度災害時間の想定を変え訓練を行っている。年1回消防立ち合いの消防訓練も行っている。カーテンや絨毯なども防火用になっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人にあった声かけやケアをおこなっている。プライバシーの確保に努めている	一人ひとりの個性にあった声かけをし、優しい声で対応するよう心掛けている。「言ってはいけない言葉」をミーティングノートで職員全員で共有している。入浴時は裸にならない様タオルで体を覆える物を用意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの中から、自己決定が出来るように声かけしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるがそれぞれの方に合った生活ができるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1度、訪問美容室を利用している。個々で化粧品・髭剃りなどその方にあった支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを把握して、それぞれに合わせて職員と共に準備・調理・片付けを行っている	職員がメニューを考えているので、利用者の好みを聞きメニューに反映している。10日は乳和食を取り入れる日と決め実行している。利用者は買い出しにも参加し、足りない食材などを買いに出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎回記録している。一人一人の状態に応じた支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。必要に応じて見守り・介助している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用している。、トイレの声かけ誘導を行いパット・オムツの使用を減らせるように支援をしている	職員は、利用者それぞれの担当が決まっている。利用者それぞれの性格を考えながら、トイレという言葉を使わずに気分よく動きだせるよう声かけをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて便周期の把握。水分・牛乳を提供し必要に応じて下剤を服用している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には1日おきの入浴となっている。体調・希望により個々に沿った支援をしている	嫌がる利用者には無理強いせず、時間をおいてもう一度声かけをするようにしている。利用者が入浴を楽しめる工夫として利用者の好きな音楽を流したり、季節に合わせた入浴剤を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて居室で休んでいただいたり、ソファにて過ごして頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルで薬一覧表を管理して、目を通し服薬の支援に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や買い物、レクリエーション・散歩など役割・楽しみ事の支援をしている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物・外食などできる限り支援に努めている	地域の「ごみゼロ運動」や盆踊りに参加している。地域の秋祭りには獅子舞がホームを訪ねてくれている。歩行困難な利用者は駐車場まで車いすで出かけることもある。毎日足りない食材や日用品を買いに行く支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には苑で管理しているが、本人の希望で所持されている方も見える		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば利用していただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節行事に合った作品を飾っている。季節の花を利用者様と一緒に飾っている	塗り絵やクリスマスツリーの切り絵を利用者が四季に応じて作り楽しんでいる。玄関にも椅子が置いてあり、利用者がそこに座って来客者に声をかけながらお喋りを楽しんでいる。加湿器も利用し空気清浄にも気を使っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や共用部にソファーや椅子を置いて自由にくつろげる様に工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時使いなれた好みの家具を持ってきて頂き本人が居心地よく過ごせる様に工夫している	タンスや三面鏡、テレビを持ち込み居心地のよい空間で過ごせるよう配慮している。また、毎日仏壇に手を合わせたり、お供えをする利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーになっている。廊下・浴室・トイレに手すりを配置している。居室前には表札を付け、トイレは大きく表示している		